



2013年1月 第11巻第1号

かく語りき—聖人の言葉

「我々は全知全能の神の子供であり、神聖なる無限の炎から飛び散る火の粉である。我々の存在がどうして無に等しいなどということがあろう？我々こそがすべてなのだ。我々には、あらゆる事をする準備ができていし、実際にできるのだ。そして、人はあらゆる事をせねばならない。だから、兄弟らよ、命を救う偉大で高貴かつ壮大な原理を、子供たちに生まれた時から教えるのだ。魂のこの驚くべき原理、魂の完璧さはすべての宗派で等しく信じられている。

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「自らの行為はすべてブラフマンの中でブラフマンを通じて行われているというのに、人々はそれを知らない。これはちょうど、壺などの陶器は土でできているということが無知によって分からないのと同じである」

(シュリー・シャンカラ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・3月の予定
- ・インド共和国大統領 プラナブ・ムカルジー閣下
ラーマクリシュナ・マトおよびラーマクリシュナ・ミッション主催ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年年間祝賀行事 開会式でのスピーチ
- ・逗子協会にてカーリー・プージャのお祝い
- ・逗子協会にてクリスマス・イヴのお祝い
- ・逗子協会にて元旦のお祝い
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

3月の予定

3月2日(土) 14:00~16:00

東京・インド大使館例会

講義：バガヴァッド・ギーター (無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

3月2日(土) 17:00

シヴァーナダ・ヨーガ東京センター
講話
詳細：<http://www.sivananda.jp/>

3日(日)、10日(日)、24日(日)、31日(日)
14:00～15:30 ハタ・ヨーガ・クラス
場所：新館アネックス
*体験レッスンもできます。
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

3月7日(木)～11日(月)
スワーミー・メーダサーナダ マニ
ラ訪問

3月13日(水)
シュリー・ラーマクリシュナ誕生日
6:00～7:30 朝拝、朗読と賛歌

3月17日(日) 11:00～16:30
シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀
会
場所：新館アネックス
6:30～7:30 朝拝、朗読と賛歌
10:30 礼拝、アラティ、花奉獻、護摩
12:30 昼食(プラサード)、休憩
14:45 特別音楽プログラム：シタール
とタブラの演奏、賛歌
16:30 お茶
18:15 夕拝、輪読、瞑想

3月22日(金)
ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活
動

現地でのお食事配布など。
お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

3月23日(土) 13:30～17:00
関西地区講話
場所：大阪研修センター
内容：「バガヴァッド・ギターとウパ
ニシャッドを学ぶ」
*詳細は特別プログラムをご覧ください。

3月28日(木)～4月1日(月)
マハーラージ 韓国訪問

**インド共和国大統領 プラナブ・ムカル
ジー閣下
ラーマクリシュナ・マトおよびラーマ
クリシュナ・ミッション主催ヴィヴェ
ーカーナダ生誕 150周年年間祝賀行
事 開会式でのスピーチ**

1月18日(金)、スワーミー・ヴィヴ
ェーカーナダの祖先生誕の地である
コルカタ北部シマラ・ストリートにて、
インド大統領プラナブ・ムカルジー閣
下が、スワーミーの生誕 150周年祝
賀行事の開会を宣言されました。

式典はヴェーダ詠唱で始まりました。
開会の挨拶と贈呈式が行われた後、大
統領閣下は、西ベンガル州知事、政府
高官、ラーマクリシュナ・マトおよび
ラーマクリシュナ・ミッションの僧侶
ら、サーラダー・マトの尼僧らなどの

参列者に挨拶され、スピーチをされました。以下がそのスピーチです。



(インド大統領プラナブ・ムカルジー閣下のスピーチ)

インドの生んだ偉大なる息子、世界の偉大なる予見者、イギリス人歴史家バシャム教授にして「今後数百年は彼のような人物が現れることがないだろう」と言わしめた人物が 150 年前に生まれたまさにその場所にこのようにいられますことは、私にとって実に名誉なことでもあります。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダの実際の誕生日は 1 月 12 日ですが、その 6 日後に当たる本日、このような神聖な催しにご招待いただきましたことを、ラーマクリシュナ・ミッション、ラーマクリシュナ・マト、および両組織を運営をなさる皆様に心より御礼申し上げます。ジャハール・サルカール氏が既にお話しされましたように、インドの偉大な 2 人の息子であるラビンドラナート・タゴールとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの生誕 150 周年を祝うために、インド首相を会長とする全国委員

会が結成されました。私はインド政府の閣僚となるまで、実行委員会の会長を務めるという榮譽に浴することができ、西ベンガル州知事を始めとする著名な方々と共に働く機会に恵まれました。現在、実行委員会会長には、国防大臣の A. アントニー氏が就任されています。

さてこの実行委員会では、1 月 12 日にデリーで式典を開催することが決定されました。と申しますのも、この式典は国家行事であり、タゴールの生誕 150 周年もタゴールの生誕日である 5 月 8 日にデリーにて祝賀式典が行われたからです。スワミーの実際の生誕日である今月 12 日、私はデリーでも 150 周年記念祝賀式典を正式に開会するという恩恵に与りました。この式典には、国防大臣、文化大臣、財務大臣、通信大臣、ソニア・ガンディー夫人など高名な方々が多数ご列席なさいました。しかし私は、もし本日の式典が開催される折にコルカタにいられたら、そしてタクール（シュリー・ラーマクリシュナ）の恩寵とラーマクリシュナ・ミッションの恵み深きご招待とがあつたら、この偉大なる予見者、偉大なる人道主義者、スワミー・ヴィヴェーカーナンダに敬意を表する機会を持つてのではないかと願っておりました。

本日ここにいらっしゃる皆様はスワ

ーミー・ヴィヴェーカーナンダについて私よりももっとご存じですので、申し上げたいと思います。私はまだまだ学ぶべきことが多く、ヴィヴェーカーナンダの広大な知識の大海の浜辺から小石を拾い上げる立場にさえおりません。が、知れば知るほど、完全に自信をなくしていたインドという社会を一人の人間があのような短い人生でこれほどまでに大きく変えることができるものかと、ますます感嘆するばかりです。



インドにとって、1860年代は歴史的に極めて重要な十年でした。1861年にラビンドラナート（・タゴール）が生まれ、1863年にヴィヴェーカーナンダが、そして1869年にはマハトマ・ガンディーが生まれました。皆この十年の間に誕生したのです。

その当時の状況はどのようなものだったのでしょうか。ヴィヴェーカーナンダが生まれるわずか5年前の1858年、ヴィクトリア女王の宣言により、インドの統治権は商社である東インド会社からイギリス政府へ譲渡されました。

その後様々な法律が制定され、インドの領土に対する宗主国イギリスによる厳格な支配が確立されました。その後その支配は、今日のミャンマーであるビルマや、今日のスリランカであるセイロンにも拡大していきました。インド国民、特に歴史上「ヤング・ベンガル」として知られる人々は、完全に自信を失いました。

私は何かで、ラダナス・シクダールについて読んだことがあります。ヤング・ベンガルの先駆者であるラダナス・シクダールは、世界最高峰のエベレスト山を測量するという偉業を達成しました。彼はインド測量局で働いており、休暇でコルカタに来た折、友人らがベンガル語で話をしているのを見て驚きました。西洋で教育を受けた人たちが意見を交わすのにこの言語を使っているのに驚いたのです。

マイケル・マドゥスダン・ダットは、ベンガル語で無韻詩を詠むことを勧められた時、そんなことをしてもやるだけ無駄ではないかと答えました。すると、ベンガル語はサンスクリットから派生した、言わばサンスクリットの娘ではないかと言われました。それに対して、彼は「この娘はあまりにも無力だ」と反駁したのです。しかしダットは、ベンガル語による無韻詩の創作を試み、やがてあの素晴らしい叙事詩「Meghnad Badh Karya」を完成させた

のです。

そして四点目を申し上げたいのですが、ベンガルのあのルネッサンスは、その誇るべき産物として知識人を生み出しました。が、彼らは自信を失っていました。しかし、ダクシネシュワルからタクールがこの国に静かに授けてくださった恩寵を受け、スワームー・ヴィヴェーカーナンダにしてこのような壮大な仕事を為さしめたそのインスピレーションを受け、彼らは私たちを激しく揺さぶりました。ヴィヴェーカーナンダは偉大なる旅人でした。彼はインド全土を旅し、さらに数多の国々へと渡りました。

「貧しい者、恵まれない者が搾取されている国に、一体、発展を期待することなどできるのか」この問題を初めて認識し、かつ明確に言葉にしたのはヴィヴェーカーナンダでした。ですから、インドの初代首相ジャワハルラール・ネルーがスピーチの中で次のように述べたのは適切です。「過去の伝統に根ざしインドの尊厳に大きな誇りを持っているながらも、ヴィヴェーカーナンダは、人生の問題に対するアプローチは現代的でした。彼はインドの過去と現在をつなぐ橋のような存在だったのです」

ヴィヴェーカーナンダは、「教育を受けたインド人は皆罪びとである。教育の代償として数百万もの他人が搾取さ

れているのにそれを気にも留めない」ということに気付き、それを言葉にできたのです。私たちがここで耳にするスワームー・ヴィヴェーカーナンダの言葉はすべて、揺らいでいた国土全体に再び自信を与えた哲学について述べているのです。

ですから、私たちが申しました通り、ジャハール・サルカールはこのプログラムの創始者の一人でしたが、そうでなければ、現在の文化大臣書記官はこのプログラムを成功させることはできなかったでしょう。私は自身の体験として分かっております。と言いますのも、1995年、私が外務大臣を務めておりました時、スワームー・ヴィヴェーカーナンダが1893年9月に世界に向けてスピーチを行ったあのシカゴのホールに何か記念となるものを設置しようとなりました。しかし、現地の法律に阻まれ、私どもにはどうすることもできず、設置には至りませんでした。

その後、私が再びインド外務大臣となる機会に恵まれた際、ジャハール・サルカール氏の取り組みもあって、私どもは記念碑を建立することができました。想像してみてください。その場所に行って記念碑をじっと見れば、スワームー・ヴィヴェーカーナンダの顔が浮かぶでしょう。これが反対された理由なのです。米国では法律により、また彼らの考えにより、このような場所

の神格化が許されておられません。

さらに、世界屈指の権威ある学舎シカゴ大学に、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えや哲学などヴィヴェーカーナンダに関する研究を行う「Indian Ministry of Culture Vivekananda Chair」(インド文化省ヴィヴェーカーナンダ学教授)という教授職が設置されました。ヴィヴェーカーナンダは、これまでも、今も、そして人類文明の存続する限り、今後も文明に関わり続けていくのです。

以上、この偉大なる予見者、ベンガルの息子へ敬意を込めて、私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

返子協会にてカーリー・プージャのお祝い

2012年11月13日、日本ヴェーダーンタ協会ではカーリー・プージャを開催しました。会場となった返子本部別館の祭壇には、インド・コルカタ近郊ダクシネシュワルのカーリー寺院に安置されているカーリー母神の御写真が、シュリー・ラーマクリシュナとサーラダー・デーヴィの御写真の間に飾られ、周囲には花や供物がたくさん並べられました。

祭壇手前の右側に設置された大きな

台の上で、スワーミー・メーダサーナンダがプージャの礼拝を執り行いました。ほら貝と鐘の音と共に礼拝は始まり、マハーラージは捧げ物を捧げ台の中に入れました。また、炎、牡牛の尾でできた扇、織物などが祭壇の御写真に捧げられました。これらは、大地の五つの構成要素であるエーテル、空気、火、水、土を象徴しています。続いて、参加者全員で、聖母へのサンスクリットの賛歌「Sarva Mangala Mangalye」を斉唱しました。



百人を超える参加者は、マハーラージ

に聖なるガンジス川の水を振り掛けてもらい、マハーラージの先導でマントラを三回唱えました。そして、一人一人カーリー母神に花のつぼみを捧げました（プシュパンジャリ）。

その後、準備が整い護摩焚き（ホーマ）が始まりました。マハーラージの先導のもと皆がサンスクリットのマントラを唱える中、火の中に供物がくべられていきました。パチパチと音をたてる炎は、時に大きな火柱となりました。やがて炎は小さくなっていき、最後にヨーグルトと聖水で火が消されました。後に残った灰は、聖灰（バスマ）としてマハーラージが参加者の額に少しずつ塗りつけました。



儀式が終了した時は予定の一時間を超えており、帰路を急ぐ方はここで帰られました。多くの方々がマハーラージと共にプラサードをいただきました。

逗子協会にてクリスマス・イヴのお祝い

2012年12月24日午後7時30分、日

本ヴェーダーンタ協会では毎年恒例のクリスマス・イヴのお祝いを逗子本部で行いました。

会場となった本館はクリスマスの飾り付けで華やかに彩られました。礼拝室の後部には隣の集会室に向かって祭壇が設置され、スワミー・メーダサーナンダが執り行う礼拝を信者の方々が集会室から見守りました。

祭壇には瞑想するイエス・キリストの絵と、『ラーマクリシュナの福音』で触れられている「聖母子像」の絵の複写が置かれ、その周囲には、LEDのイルミネーションやキャンドル、果物、アメ、ケーキ、ビスケット、グレープジュースなどが美しく並べられました。



聖書の『マタイによる福音書』の輪読とマハーラージによる短い講話が行われました。ロニー・ハーシュ氏と泉田香穂里氏（シャンティ）が英語と日本語でクリスマス・キャロルを歌いました。

逗子協会にて元旦のお祝い

2013年1月1日、日本ヴェーダータ協会では、午前11時から逗子本館にて毎年恒例の元旦のカルパタルを行いました。



スワーミー・メーダサーナンダが聖句を朗唱し、始めの挨拶をしました。続いて、『ラーマクリシュナの生涯』『ホーリー・マザーの福音』『ブッダの教え』『新約聖書』を輪読し、皆で静かに祈りを捧げました。その後、昼食のプラサードをいただきました。

午後2時を少しまわった頃、マハーラージと十二名の信者の方々は徒歩で鎌倉に向かいました。まず高德院を参拝して大仏に供物を捧げ、その後カトリ

ック雪ノ下教会と鶴岡八幡宮に参拝しました。

忘れられない物語

聖人と罪人

アナスタシオスはエジプトにある修道院の院長でした。修道院にはかなりの数の本が揃っていて、そのうちの一冊は珍しくて大変値打ちのあるものでした。

ある日、訪ねてきた修道士が偶然その本を見つけ、誘惑に負けて盗んでしまいました。盗まれたことはその日のうちに分かり、誰がやったのか当たりをつけるのはさほど難しいことではありませんでした。しかしアナスタシオスは、修道士を追わせることに賛成しませんでした。修道士が本を取っていないと言って偽証の罪も重ねてしまうかもしれない、と恐れたからでした。

そうしている間に、修道士は本を売ろうとしていました。そして、遂に買い手となる金持ちの男を見つけました。男は修道士に、一日だけ本を預かって価値を見極めたいと申し出ました。

修道士が立ち去ってから、男は修道院に急いで行き、アナスタシオス院長にその本を見せました。院長は即座に事の次第を察しましたが、何も言いませんでした。

「ある修道士が私にこの本を売りたいそうなんですよ」と、男は言いました。「ソブリン金貨が欲しいそうです。院長は本を見る目がおありですからね。この本にそれほどの値打ちがありますか」

「金貨などよりはるかに値打ちがあります。貴重な本です」と、院長は言いました。

男は院長にお礼を言って去りました。翌日修道士が現れたとき、男は本を買いたいと告げ、修道士が提示した金額を払う用意ができていると言いました。修道士は大喜びしました。

「誰にその本を見せたのですか」修道士は尋ねました。「アナスタシオス院長です」

修道士は真っ青になりました。「そ、それで、院長はなんと言っていましたか」「ソブリン金貨に値する値打ちがあるとおっしゃいました」「それで、他には」「別に何も」

修道士は驚嘆すると同時に心を動かされました。院長は、盗みを働いた修道士がトラブルに巻き込まれないよう、大切ななくしものを取り戻すのをやめたのだと悟りました。今まで修道士にそのような慈愛を示してくれた人はい

ませんでしたし、修道士に対しそのように気高く振る舞った人はいませんでした。

「私は気が変わりました。本は売りたいくありません」修道士はそう言うと男から本を引き取りました。「ソブリン金貨 2 枚あげますよ」と男は言いましたが、修道士は何も言わず立ち去りました。修道士はその足で修道院に行き、涙で目を一杯にしながらか本を院長に手渡しました。

「本はそのままお持ちになっていなさい」と、アナスタシオスは言いました。「あなたがそれを借りて行ったので、あなたに差し上げることにしたのですよ」

「どうか返却させてください」修道士は懇願しました。「そうして、私をここに置いて、あなたの賢い行いを学ばせてください。」

願いは叶えられました。修道士は、聖なるアナスタシオスの生き方を手本にしながら人生の残りの年月を修道院で送りました。

(『Wisdom of the Desert (砂漠の知恵)』トマス・マートン、トラピスト会修道士)

今月の思想

「真理という優れた地盤の上に立つこと
に比すべき楽しみはない。」
(フランシス・ベーコン)

発行：日本ヴェーダータ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp